



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、松川町水原にあるクマガイソウの群生地「クマガイソウの里」の保護活動に尽力されている「水原の自然を守る会」事務局長の丹野一男さんにインタビューしました。

🌱 始めたきっかけは？

12年前まで、県の職員として働いていました。退職後すぐに「水原の自然を守る会」の役員の方から声が掛かり、入会したことがきっかけです。



水原の自然を守る会
丹野 一男さん

🌱 どんな活動？

水原の自然の中でも、クマガイソウを中心に保護活動に取り組んでいます。年間を通して、盗掘はないか、現地の状況確認などを行っています。特に忙しいのは「クマガイソウの里まつり」期間中で、お客さんの案内や、駐車場の整理などを行っています。

🌱 クマガイソウの魅力は？

花がおしとやかで素敵ですよ。花は下を向いて控え目に開き、綺麗な色を付けてくれます。多分、威張りたくないから下を向いているんじゃないかな(笑)。花を見ているような気持ちにさせてくれます。

🌱 活動のやりがい？

いろいろな人との出会いです。最も多いシーズンは約1万6千人の方に来ていただきました。活動を始めたころは地元の方がほとんどでしたが、何年も活動を続けていくうちに遠方からも来ていただけるようになりました。わざわざ大阪、広島、新潟などから車で来られる方や、大型バスに乗ってツアーで来られる方もいます。クマガイソウの保護の必要性を理解し、花そのものを楽しんでもらえるのがうれしいです。また、地元の水原小学校の児童が授業の一環でクマガイソウをはじめ水原の自然環境を学び、まつり期間中に「クマガイソウの里」を数回案内し



▲今年のクマガイソウの状態を確認する丹野さん

🌱 アフターDCへの意気込みは？

アフターDCでクマガイソウの里が紹介されていることは、大変名誉なことだと思います。「福島にこんなところがあるんだね」と言ってもらえるのがうれしいです。

活動のかいあって、今では水原と言えばクマガイソウ、との声もいただけるようになりました。アフターDCも、お客さんに満足してもらえよう、地元の力を合わせて、精いっぱいおもてなししたいと思っています。



撮影：市民カメラマン 穴戸良之さん

▲クマガイソウは野生のランの中では一番大きい多年草。観賞用としての乱獲が続き、環境省レッドデータの絶滅危惧種に指定されています。

市長 コラム

「ふくしまレンガ物語(下)」

福島市長 小林 香



日本銀行福島支店前の通りは、通称「レンガ通り」と呼ばれておりますが、これは昭和53年に日本銀行福島支店旧店舗が取り壊された際に、建物をしので「大町通り」から「レンガ通り」に名称が変更されたものです。

4月号では、かつて市内にレンガ工場があったこと、そして街なかにレンガ造りの日本銀行福島支店の旧店舗や旧福島県農工銀行本店があったことを紹介しました。このように、レンガは福島の街の歴史に大きなつながりがあり、すので、「レンガ」を「まちづくり」のキーワードのひとつにしたいと思っています。

昨年、福島駅西口に設置したレンタサイクルの管理棟は、レンガを用いたレトロ調の建物としました。また、昨年3月に国の認定を受けた



▲福島駅西口のレンタサイクル管理棟

口に設置したレンタサイクルの管理棟は、レンガを用いたレトロ調の建物としました。また、昨年3月に国の認定を受けた

「中心市街地活性化基本計画」では、福島駅東口の駅前通りからレンガ通り、そして移転新築される大原綜合病院までを「東西動線軸」として、にぎわい創出のためのシンボリックな道路と位置付けており、福島駅前通りは、「レンガ基調のレトロモダン」をイメージした道路に生まれ変わる予定です。



▲駅前通り完成予想図 (提供：東北建設事務所)

今後、地元の皆さまと「まちづくり協定」を結び、歴史・文化を踏まえた、新しい「ふくしまの顔」として、街並み景観の創出に取り組んで参ります。

「みんなが誇れる県都」を目指して。